

# 公民館学習会バスハイク



## 秋霖の中、木曾・諏訪をめぐる



第717号  
 発行人 ● 豊丘村公民館  
 館長 市澤和宏  
 編集人 ● 長野県下伊那郡  
 豊丘村公民館報  
 編集委員会  
 0265-35-9066  
 印刷所 ● 龍共印刷株式会社

私たちの村  
 (11月1日現在 ※外国人を含む)  
 男 3,339人  
 女 3,379人  
 総人口 6,718人  
 世帯数 2,200戸

十月九日に公民館学習会バスハイクが行われた。台風接近で一日中雨に見舞われたが、風が吹かなかつたことが幸いだった。当日は、学習会受講生四十五名が参加。コロナ禍での事業であり、車内の密を避けるため二席に一人ずつ座り、大型バス二台で実施した。

バスハイクは、当初六月に「安曇野の歌碑を巡る旅」ということで「歌」を目的とした行程であったが、新型コロナウイルス感染症の飛沫感染リスクがあるため、比較的にリスクの低い地域を選定し、木曾奈良井宿、諏訪大社下社を学ぶ行程に変更した。観光や参拝で馴染み深い、そこは公民館学習会。案内人から歴史、建物の構造、

つひとつに領いていた。まず奈良井宿では、昭和四十三年に現在資料館となっている「中村邸」の宿場外への移設問題をきっかけに、町並みの保存運動が高まった。十年後、国から「重要伝統的建造物群保存地区」に選定され、今日に至るまで約1kmの町並みを守り続けてきたとかがあった。江戸は漢字文化、京はかな文化のため、店の看板は江戸へ向かう方向は漢字で書かれ、京側はかなで書かれていた。

また、十月に開催される皇女和宮御下向行列では和宮役には選ばれると十萬円の賞金がもらえる。「みなさんお年を召されているので応募はできませんが、乳母役も募集していますよ。但し賞金はありませんよ」そんな話で笑いもあり奈良井宿後にした。昼食後、原田泰治美術館に寄った。原田画伯が傘寿八十歳を迎えたことの特別企画展を鑑賞することができた。

次に諏訪大社下社へ。ここでも三班に分かれガイドを受けた。まず目に入ったのが「寝入りの杉」と言われる樹齢六百年以上の大木である。そのまま進むと、七メートルの高さの日本一大きな狛犬や、神楽殿の太くて立派なしめ縄が目に入る。しめ縄は、出雲大社から職人が来て作ったものであるとのこと。

また、幣拝殿、宝殿を囲む四本の御柱の話も聞いた。雨がやむことは無く、天候には恵まれなかったが無事に事業ができた

ことは、コロナ禍でまた一歩踏み出した気がした。当初、計画はしたもの参加申し込みがあるかどうか、南信地方での感染者の発生状況など気を探った。まだしばらくは、事業計画を立てる度にコロナ問題と付き合っていかなければならないが前向きに取り組んでいきたい。(公民館事務局)



の皆さんにご迷惑をおかけしてしまいました。もはや、コロナの問題は疾病の問題に留まらず、人と人との関係の中で営まれてきた人間社会のあり方にも降りかかる大きな問題になっており、このことが、新しい価値の時代をつくるていくことにつながるのかも知れません。



十月二十九日夜、空を見上げたなら、明るく満月より少し欠けたお月様がでていました。この月は十三夜といわれ、旧暦の九月十三日にあたり、豆名月、栗名月とも呼ばれるそうです。この一ヶ月程前の十五夜(芋名月)の方が有名ですが、『同じ場所で、両方のお月見をしないと良くない事がおこる』という話を祖母から聞いたことがあります。十三夜も有名だったようです。

# 新旧館長挨拶

十月より公民館長を拝命いたしました。もとより浅学非才この器では無い私ですが住民の皆様のお力添えを頂きながら努めて参ります。昭和三十年より続く豊丘村公民館の歴史を汚すこと無く、全集中で取り組んで参ります。折しもCOVID-19の最中、公民館はどう進むのか眼前に大きな問題として立ちまはだかつていま



**混迷の中、方法を探りながら**  
 新館長 市澤和宏

す。人々の集いを前提としている公民館、その正反対の感染症拡大対策、暫くは暗中模索が続くと思います。「二匹のヤマアラシ」という相原公民館でのお話をご紹介します。寒い冬のある日、二匹のヤマアラシは凍えるのを防ごうと、ぴったりと体を寄せ合いました。でも相手のとげが自分に刺さり痛くて体を離しました。離れると寒く、くっつくとも痛い。これを繰り返していく中でお互いを傷つけず、しかもほどほどに暖め合う事のできるディスタンスを発見したのでした。今を生きゆく公民館そして私達にとって何らかのヒントがある気がします。



**四年半に感謝!**  
 前館長 原 国人

九月三十日をもって公民館長の職を退任いたしました。四年半の間、多くの皆様とともに活動できたことに心から感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

今年、年明け早々から新型コロナウイルスが世界を揺るがす問題になり、公民館も例にもれず当初予定した事業が開催できず、多くの皆様にご迷惑をおかけしてしまいました。もはや、コロナの問題は疾病の問題に留まらず、人と人との関係の中で営まれてきた人間社会のあり方にも降りかかる大きな問題になっており、このことが、新しい価値の時代をつくるていくことにつながるのかも知れません。

秋の収穫に感謝しながらのお月見は、昔も今も変わらない秋のイベントだと思います。お月様にしてみれば、大昔からずっと地球を見てきて、「だいぶ変わったな。」って思っているといます。うさぎさんも思っています。うさぎさん思っていますか？

(原 明美)





